

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02075

研究課題名（和文）スーパーダイバーシティ状況におけるエスニック境界の再編：大阪市M地区の事例

研究課題名（英文）Reconfiguration of Ethnic Boundaries in the Situation of the Super-diversity

研究代表者

高谷 幸（Takaya, Sachi）

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：40534433

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、大阪市を対象に、質的調査を通じ、エスニック境界の再編の動態と境界の機能を明らかにすることを目的として行われた。歴史的に在日コリアンが集住してきた大阪では、近年、より多様な背景の移民が増加し、一部地域は「スーパーダイバーシティ」と呼ばれる状況にある。当該地域での調査から明らかになったことは、エスニック境界の緩やかな再編である。例えば以前は、日本人と在日コリアンの間に、強固なエスニック境界が引かれていたが、現在はむしろ、日本人・在日コリアンは、新規移民との間に差異を見出している傾向がみられる。つまりエスニック境界は、国籍やエスニシティ以上に、居住歴等によって引かれていると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、主に以下の二点をあげることができる。第一に、これまでの日本における移民研究では、エスニシティや民族関係が固定的なものとして捉えられがちであったことに対し、本研究は、エスニック境界という概念で地域社会の民族関係を分析し、それが固定的なものではなく、文脈に応じて動的なものであることを明らかにしたことである。第二に、地域研究は、定住化した移民を扱いがちであるが、本研究では流動性の高い移民も対象にし、多様な背景をもつ移民の共在状況に着目した。その上で、この地域が歴史的に移動性を含みこんだ場として形成されてきたことを指摘できると考えている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to consider the dynamics of reconfiguration of ethnic boundaries and the functions of boundaries through the qualitative research in Osaka. In Osaka, where many Zainichi Koreans have historically been living in Japan, the number of migrants with more diverse backgrounds has been increasing in recent years, and some areas are in a situation that could be called "super-diversity." What the study has founded in these areas is a gradual reconfiguration of ethnic boundaries. For example, whereas previously a solid ethnic boundary was drawn between Japanese and Zainichi Koreans, today Japanese and Zainichi Koreans rather tend to find differences with the new migrants. In other words, ethnic boundaries are now drawn more by residential history than by nationality or ethnicity.

研究分野：社会学

キーワード：多文化 スーパーダイバーシティ エスニック境界 大阪

1. 研究開始当初の背景

本研究の社会的背景として、歴史的に在日コリアンの集住地域である大阪では、近年、他の移民が増加していることがあった。具体的には、大阪市在住の外国籍人口は2013～2018年の5年間に約1万6000人増加した。特にベトナム籍8.6倍、ネパール籍3.1倍など新しい地域からの移住者の急増が目立っていた。この状況は、数の増加とともに、在阪外国籍者の国籍・エスニシティの多様化でもあった。実際、住民人口が1000人を超える国籍は6カ国(2013年)から9カ国(2018年)に増加する一方で、外国籍人口に占める韓国・朝鮮籍の割合は65%から51%に減少した。地域によっては他国籍の方が多数派になっている地域も見られた。同時に、帰化者や国際結婚の子どもなど日本国籍者の多様化も進んでいた。

その上で、こうした状況を表す概念として、S.パートベックが、歴史的に旧植民地出身者が多かったイギリスにおいて2000年代以降、東欧などより多様な出身の移民が増加した状況を名づけた「スーパーダイバーシティ」が参照できると考えた。そこで、現代の大阪を「スーパーダイバーシティ」と呼び、そうした状況において、誰と誰が結びつき、そこから誰が排除されるのか、またその境界を基礎づける「われわれ」と「他者」という認識はどのように引かれるのか、ということに関心をもち、本研究を企画した。

2. 研究の目的

上記の問いに答えるため、本研究ではエスニック境界に着目して研究を進めることにした。すなわち本研究の目的は、「スーパーダイバーシティ」状況にある大阪において、日常生活におけるエスニック境界の再編と再編された諸境界の機能を明らかにすることである。これまで移民・エスニシティの実証研究では、エスニック集団を自明視する傾向にあった。一方で、理論レベルでは、エスニシティの構築性を明らかにしてきた。しかしこのアプローチもエスニック境界が意味をもつ場とまたない場の違いを説明できないという問題が指摘されてきた。

同時に、大阪におけるエスニシティ研究は、特に在日コリアン、あるいは日本人と在日コリアンの関係性/境界に着目する研究が主流となり、他の移民についての研究は限られてきた。これに対し、本研究では、エスニシティの多様化が進む大阪で、エスニック境界がどのように再編されているのか、またその境界がどのように機能しているのかを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

本研究では、当初、大阪市M地区におけるフィールドワーク、住民インタビューおよび同地区にある住民組織、NPO、商業団体などの中間集団へのインタビューを通して、境界の動態と機能を明らかにすることを企図していた。しかし実際に調査を進めてみたところ、同市I地区の方がより多様性が高く、また調査参加者へのアクセスも容易であることがわかってきた。そこで、調査対象地をI地区にも広げ、調査を行なった。途中、新型コロナウイルス感染症の流行によって研究の中断を余儀なくされ、研究期間を1年間延長したが、研究期間全体を通じて、日本人、在日コリアン、ニューカマーコリアン、他の国籍の移民などへのインタビューと、地域やキリスト教会、地域イベント等での参与観察も含むフィールドワークを行なった。

4. 研究成果

研究を通じて明らかになったこととして、以下の5点を指摘できる。これらのうち一部は、論文や学会報告の形で公表してきた。また、特に(2)(4)(5)の論点については、さらに調査が必要と考えたため、別の科研費研究に参加し、フィールドワークを継続している。これらの調査も踏まえて、さらに研究発表を行う予定である。

(1) エスニック境界の再編という点では、これまでは日本人と在日コリアンの間に強固な境界が引かれていた。同時に、その境界が乗り越えられるのは、エスニック関係を回避した「バイパス結合」が生じた場合ということが、先行研究の知見であった。これに対し、本研究が明らかにしたことは、新規移民が増加するI地区においては、日本人・在日コリアンと新規移民の間に(も)境界が生じていることである。例えば、新規移民の地域生活における行動を、「われわれ」とは異なるものとして認識している語りが、日本人や在日コリアンから聞かれた。これは、エスニック境界が、国籍やエスニシティ以上に、居住歴、言葉、地域社会における規範の内面化に基づいていることを示唆している。ただしこれは、日本人と在日コリアンの間の境界が消滅したことを意味するわけではない。地方参政権、民生委員や町会役員など法的・制度的・慣習的な日本人/外国人という境界は今も残っている。つまりI地区のエスニック境界は、ますます複雑な様相を示し、文脈に応じて特定のエスニック境界が迫り出したり、潜在化したりするといえる。

(2) こうしたエスニック境界の再編は、人びとの帰属意識とも結びついている。I地区の中には、ニューカマーコリアンが集住するエリアがあるが、そこはかれらにとって「われわれ」の場所であった。しかしこのエリアにも近年、多様な背景をもつ移民が増加している。そして、その変化について、当該エリアが自分たちの場所ではなくなっているという感覚を抱くコリアンもいた。このエピソードは、境界の再編が人びとの認識にもとづくだけでなく、帰属意識とも関係してい

ることを示唆している。

(3) 一方で、エスニック境界は乗り越えられないわけではない。I 地区では、ある時期に新規移民による公園の占有が生じ、地域住民から疑念の声が出ていた。これに対し、新規移民たちが別の場所として見出したのは地域の朝鮮学校であった。これは、地域間のエスニックコンフリクトを乗り越えたのは、経済的な取引関係としてのマイノリティ同士の結合であり、「バイパス結合」の持続と変容として捉えることができる。と同時に、これはエスニック境界の動態性をも示している。

(4) 以上のように、I 地区では新規移民が増加し、それに対する地域住民の複雑な眼差しがある。一方で、歴史を遡れば、I 地区は戦前から朝鮮半島・済州島からの移動が多く、その流れは戦後も「密航」という形で続いてきた。またその後も、コリアンや中国、ベトナム、ネパールなど多様な地域からの移民が流入している。このことを考えれば、この地域は歴史的に移動性を内包した場所として形成され、移動との関係で地域は常に変化してきた。地域住民のなかにもこうした移動性の高さを地域の特徴と考えている人びともいる。この事例から、より一般的に、場所と移動（の記憶）の関係性を問い直すことができると考えており、それが今後の課題となる。

(5) 法的・制度的に敷かれた日本人と在日コリアンとの境界、また日本人と在日コリアンと多様な新規移民の間を錯綜する何本も引かれたエスニック境界が存在し、研究期間全体を通じて理論的な蓄積が不足しているエスニックな境界とジェンダーによる境界の交差（インターセクショナリティ）をフェミニスト・エスニック・スタディーズの視点から分析した。特に日本のエスニシティ研究では不可視化され分析対象から外されがちなエスニックマジョリティ、ジェンダー研究でも分析対象に置かれることが少ない男性性の交差にも光を当てた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 50(5)
2. 論文標題 交差的な帰属	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 176-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Chung, Haeng-ja	4. 巻 -
2. 論文標題 「日本の国立大学法人 岡山大学のグローバル化に応じた言語分政策」(韓国語)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 慶尚国立大学校 海外地域センター 2020年度叢書：見えにくいユーラシアの民族の現状と未来は？』	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭幸子、宮川陽名	4. 巻 6
2. 論文標題 なりゆきとあそびから考える震災後の歩み：在日コリアンからの支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 101-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 2
2. 論文標題 時間への関与と現代日本におけるメンバーシップの境界	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 対抗言論	6. 最初と最後の頁 344-352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 -
2. 論文標題 移民・多様性・民主義 誰による、誰にとっての多文化共生か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩淵功一編著『多様性との対話』青弓社	6. 最初と最後の頁 68-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭幸子	4. 巻 5
2. 論文標題 「あまりにも見事にくり返す」：災害とマイノリティ女性と複合差別	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 60-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 13
2. 論文標題 移民の統合 / 共生をめぐる理念・再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 理論と動態	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 729
2. 論文標題 現代日本における移民の編入様式 家族を通じた分岐とジェンダー構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 65-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15002/00022347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 1152
2. 論文標題 現代日本における移住女性の配置の変容と社会的再生産の困難	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 122-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鄭幸子	4. 巻 4
2. 論文標題 「此の高価なレッスン」：東日本大震災を「わすれん！」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 50-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鄭幸子	4. 巻 88(4)
2. 論文標題 フェミニスト・エスニック・スタディーズから人類学への提言ー植民地主義、男性中心主義、複合的 不平等の克服に向けてのDEI	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 673-691
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高谷幸	4. 巻 41
2. 論文標題 コロナ禍のアセンブリ:入管法改定案抗議運動からみる対面的公共空間の意味	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本都市社会学会年報	6. 最初と最後の頁 20-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 高谷幸
2. 発表標題 「コロナ禍における移民の生活と都市・公共空間の可能性と限界」
3. 学会等名 シンポジウム「コロナ禍における都市空間と排除」日本都市社会学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TAKAYA, Sachi
2. 発表標題 A step to liberal democratic membership or refinement of developmental membership?: The meaning of new residential status in Japan
3. 学会等名 European Association of Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TAKAYA, Sachi
2. 発表標題 Stepped developmental membership and its effects: Considering the new residential status in Japan
3. 学会等名 East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haeng-ja Chung
2. 発表標題 "De-Colonize the Peer-Review System: Lessons from the Ramsayer Controversy" (Online) at the Roundtable "Japan Anthropology in Difficult Times: The Ramseyer Controversy and Scholarly Responsibility"
3. 学会等名 the Hybrid Annual Meeting of American Anthropological Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高谷幸
2. 発表標題 移民の帰属にかんする理論
3. 学会等名 第93回本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 TAKAYA, Sachi
2. 発表標題 A Place of belonging or experiencing domination?: Negotiating making a "home" for migrant women with intermarriage status in Japan
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 TAKAYA Sachi
2. 発表標題 Backgrounds of the absence an official migration policy in Japan
3. 学会等名 DIJ Symposium, "The politics of migration in Japan" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高谷幸
2. 発表標題 日本における移民の編入様式 1980-2015 (2) ジェンダーからみる就業の変化
3. 学会等名 日本社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKAYA, Sachi
2. 発表標題 "The Force of Domesticity": A case of Filipino Marriage Migrants in Japan"
3. 学会等名 NODE symposium
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 TAKAYA, Sachi
2. 発表標題 Unexchanged glances, encountering bodies: Ways of coexisting in "super-diversity" in an urban area in Japan
3. 学会等名 The European Association for Japanese Studies
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 檜垣立哉編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 202
3. 書名 『住む・棲む』（「第6章 帰属はいかに可能か」分担執筆）	

1. 著者名 Sakai, Kazunari and Lanna, Noemi eds.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 203
3. 書名 Migration governance in Asia: A multi-level analysis (Higuchi, Naoto, Takaya, Sachi and Inaba, Nanako"Ch.4 Poverty of migrants in Japan" 分担執筆)	

1. 著者名 高谷幸編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 300
3. 書名 『多文化共生の実験室：大阪から考える』	

1. 著者名 高谷幸編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 256
3. 書名 『移民政策とは何か：日本の現実から考える』	

1. 著者名 岸見太一・高谷幸・稲葉奈々子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 272
3. 書名 『入管を問う』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鄭 幸子 (Chung Haeng-ja) (20770001)	岡山大学・グローバル人材育成院・准教授 (15301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------